

郷蔵米通信

2021年2月 郷蔵米生産組合

■ご挨拶

この冬は久しぶりに雪かきをし、渇水気味の野山も雪解けでうるおい、川の水位も少し増えて来ました。

124年ぶりという2月2日の節分も過ぎ、陽が何となく春めいて来ました。我が家でも、昔からの『節分年取り』をし、豆まきをしました。大晦日に行う『年取り』と同じくご馳走を並べて、御神酒で今年の健康を祈願する意味合いがあるのですが、何度も年取りをすると1年に2才もプラスになってしまう!?! と思ったものですが、まだまだ続けています。

遅くなりましたが本年もよろしくお願いたします。



■今年の行事予定

昨年はコロナ禍の中、全てのイベントを中止としましたが、ワクチンの接種や緊急事態宣言などが出なくなれば、何らかの形で行うようにしたいと考えています。



田植え 5月下旬~6月上旬

稲刈り 9月下旬~10月上旬

収穫祭 11月上旬

■合鴨のピンチ

草取りの助っ人である合鴨。毎年そのヒナを関東の【孵卵場】から購入していましたが、鳥インフルエンザの発生で、今年はその【孵卵場】からヒナを購入することが出来なくなりました。そのため今回は関西にある【孵卵場】にお願いすることとなりましたが、現在、注文が殺到しているということで実際に購入出来るかどうかは、その時にならないと分からないという状態となっています。

雑草は稲の生育に大きく影響を及ぼします。6月はじめから約1か月間ほど、1000㎡に約10羽の合鴨たちが田をかき混ぜ、害虫を食べながら雑草の除去もしてくれるので、稲がスクスク育つわけです。

生産者も高齢になっていますし、合鴨除草無しでの草取り作業はかなりの負担となりますので、合鴨を利用している生産者は非常に気を揉んでいるところです。少しでもヒナたちが来てくれればと願うばかりです。